

4	1
	3 2

# アジア健康長寿イノベーション賞 大賞を長野県駒ヶ根市が受賞

①②駒ヶ根市では、脳卒中患者が運動量の記録をすることなどで1年以内再発率を10%から約6%に減少させた。③ベトナムは通いの場で高齢者の健康を増進させる。④タイではITで少数民族の言語をカバーし、ケアの質向上をめざす

アジア健康構想の一環として公益財団法人日本国際交流センターが、東アジア・アセアン経済研究センターと共同で選出した、高齢化の課題解決するための革新的なプログラムが表彰された。



## Data

公益財団法人  
日本国際交流センター  
●東京都港区赤坂 1- 1-12 号 明産溜池ビル 7F  
TEL 03-6277-7811  
URL www.jcie.or.jp/japan



## 3つの革新的試みを 大賞に選出

公益財団法人日本国際交流センターは7月27日、第1回「アジア健康長寿イノベーション賞」の受賞団体を公表、31日に表彰式をオンラインで開催した。同賞はアジアの急速な高齢化に各国が共に対応するために設けられたもの。

テクノロジー&イノベーション部門大賞は、タブレットを用い、農村地域に根づいたヘルスケア管理を行う、タイの高齢者発展財団の「バディ・ホームケア」。コミュニティ部門大賞は、ベトナムのヘルプエイジ・インターナショナルベトナムの「多世代間自助クラブ開発モデル」で、高齢者の健康を世代間交流の場で支えるもの。

日本からは、駒ヶ根市が自立支援部門大賞を受賞。「病院と自治体との協働による脳卒中再発予防のためのセルフマネジメント支援の取り組み」で、脳卒中再発率を抑制する試みである。また、株式会社ぐるんとびーが、「団地を一つの大きな家族に」で、コミュニティ部門準大賞を受賞した。